

大牟田の水道に興味ある

松政 下市企業局などを視察



大牟田市企業局から説明を聞く塾生たち

興味がある。今後の推移を見て参考にしたいという。

財団法人・松下政経塾(本部・神奈川県茅ヶ崎市)の塾生四人が二十五日、大牟田市内の水道事業を視察。市企業局(大牟田市有明町)やフレッシュ・ウォーター三池(同市青葉町)で事業内容を聞いた。塾生たちは補助金が出るとしても約八十億円を投じ荒尾市と共同の浄水場施設を整備(維持管理委託)する意欲がなぜあるのか

大牟田を訪れたのは寺岡勝治さん(第二十八期生)ら四人。市企業局では長田光信経営企画課長らが水道事業の概要、沿革や歴史、課題などを説明した。寺岡さんと西田一平太さん(第二十九期生)らは局側から話を聞いた後に「市の財政が非常に厳しいのに『安全な水の安定供給』のためとはいえ、なぜ新たに自前の浄水場を造

る必要があるのか。企業局は『関係ない』というが、昨年十月(検針分)からの二・一四％の水道料金値上げとも連動しているように思えない。社水(三池炭鉱専用水道)と市水(両市)が県境をまたいで利用されてきた地域の歴史的特徴を合わせてとても興味がある」と述べた。

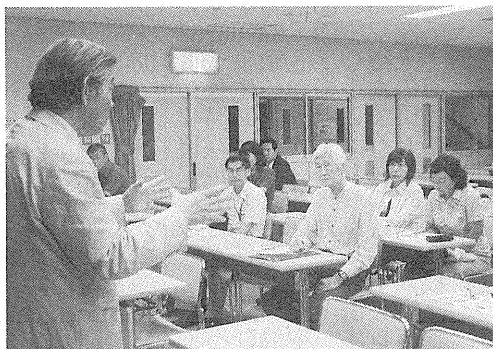
今回の視察の目的は森、河川、水道の各側面からの水資源確保。人工林ではなく、自然の森を守らねば水は守れない。水源確保はダム建設以外でもできるはずと主張する。

塾生は二十一日に熊本市、日田市、久留米の「志に

日本の世界貢献など紹介

歴史セミナーに26人

大牟田 有明龍馬会(田中正繁会)は二十四日、大牟田市中央地区公民館で第八回歴史セミナーを開いた。二十六人が参加し、日本が世界で展開した貢献事業が受講し、日本が世界の歴史に学ぶ会。大牟田をはじめ、みやま、柳川、大川、玉名市の二十四人が活動している。年に二回、歴史セミナーを開いており、この日はNPO法人師範塾塾長などを務める荒尾市出身の占部賢志さんが講演。パラオ共和国の橋建設、スマトラ沖地震の津波被害を最小限に抑えたというモルディブ共和国マレ島の護岸工事といった、日本が果たしてきた世界貢献を話した。また、日本で初めて



占部さんの講演に聞き入る受講生

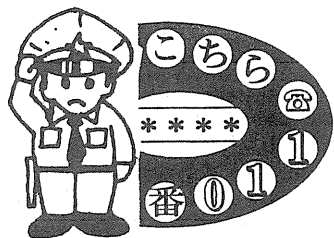
手打ちそば実演会にぎわう 妙技披露し患者も挑戦



専用包丁でそばを切る患者(中央)

大牟田市立総合病院(中山頭児院長)の栄養科は二十四日、同病院五階食堂で手打ちそばの実演会を開催。約四十人の患者の前で見事な妙技を披露し、患者もそば切りに挑戦するなど、盛り上がりを見せた。同病院は入院

盲啞学校設置を建白三、戊申戦争下で生き別れた父母妹の行方を介した。(河野 美緒)



《大牟田署》

▼24日午後0時20分

「笹林町で軽乗用車同士の事故です」交番員出動。物件事故処理。

▼午後0時57分「手

処理。

▼午後5時15分「有

知火町の路上に車が止まり迷惑です」交番員出動。嚴重説諭。移動させる。

明町で女性が騒いでいます」交番員出動。酔っぱらい。帰宅させる。

▼午後11時34分「本町で若者が騒いでいます」交番員出動。一人を補導。嚴重説諭。解散させる。

▼午後5時42分「有明町で家族間のもめごとです」交番員出動。警告。説諭。

▼午後9時35分「中

島町の店舗前に車が止まり迷惑です」交番員出動。力による注意。

▼25日午前1時31分

少年が騒いでいる

島町の店舗前に車が止まり迷惑です」交番員出動。力による注意。

